早稲田大学審査学位論文(博士)の要旨
2544(2)

博士（人間科学）学位論文　概要書

社会調査における政策的アプローチ
―都市と福祉―

１９９８年１月

早稲田大学大学院人間科学研究科

増　田　金　重

W
学位論文
2544
2

1．政策的アプローチの分類上の特徴

シンクタンクでは事例研究という個別の部分調査が主流であるが、時には統計的方法の全数調査という意味で全体調査も扱うことがある。たとえば地方老人保健福祉計画も策定においては悉皆調査（全数調査）の実施を指示している。

また、事例研究法を主とする実態調査が主流であり、統計的方法による統計調査は総じて補足的に扱われるケースが多い。これは調査スタッフが少人数であること、統計結果では具体的な政策がつかめないことなどが理由としてあげられる。

政策的アプローチをもっとも特徴づけるものはつぎの点であろう。

(1) 文献調査

シンクタンクでは文献調査を重要なものとして位置づけているところが特徴である。大学人の社会調査では総じて文献調査の位置づけは弱いものと思われる。人類学にあっては、文献資料が乏しい未開社会を中心に調査を行うことから参与観察に調査過程の多くを占める。また社会学においては、たとえば安田三郎氏が統計的調査法の優位性を主張する中で、文献調査を調査と認めず、文献資料の価値も低く扱っているが、概してこうした風潮が多勢を占めてきたと思われる。そして安田・見田論争のポイントのひとつは安田氏が文献調査を認めないことと、あわせて文献資料を調査の枠内においていないことがあげられよう。見田氏がイメージする日記などの文献資料とシンクタンクが扱う計画書などの文献資料はまったく異なるが、ともに文献資料がもつ重要性を認識している。とりわけ、計画の継続や整合を前提とするシンクタンクの調査では文献調査は必要不可欠として考えている。シンクタンクでは文献資料が豊富な現代社会を対象にしており、また調査計画書との整合が必要不可欠な作業のなっているのである。したがって文献調査がシンクタンクの調査の成否の鍵の一つをなしていると指摘したい。文献調査の成果がインテンシブ・メソッドの進行においても、調査課題への精通などの面で重要な役割を演じている。

(2) 人類学的手法

シンクタンクの事例研究では、インフォーマント（精通者）が重要な位置を占めている。人類学を代表する調査法である参与観察法をもちいないが、非参与的観察（現地踏査という）は重要な役割を演じている。

事例研究法のなかの自由面接法がシンクタンクの中心的技術（ヒアリングという）である。事例調査においては代表性なども配慮するが、それ以上に調査課題に精通しているか否か、調査課題に関わるか否かを問題として、被調査者の選定にあたるのである。また調査課題に対する反対、賛成の論理を問わず、むしろこうした論理を通じて精通している部分の調査をもとめる。調査課題の内容を具体的に表現することに調査の主眼があり、ここから現実味のある計画案をもとめるのである。

2．政策的アプローチの特色

シンクタンクの研究者はその地位をもって、政策に関わる委託調査においては、つぎの一連の役割群を演じることがもとめられる。

『政策に関わる委託調査の立場』 ←
- a. クライアントの代行的責任をはたす役割期待
- b. コンサルタント（有識者）として見解をのべる役割期待
- c. 個人的な見解も研究者の個性として認められる役割期待

市民意識調査などの現実分析分野の委託調査では調査者の記名性が可能となるが、また調査の性質から中野氏（昭和50年）が倉敷市の企業公害被害地区の住民意向調査でもとめたように、調査報告書の公開ならびに説明報告もおこなえる。

だが、政策に関わる委託調査では調査者は匿名的となり、計画書に調査者の氏名が載ることは原則的にはない。委託調査の実施主体はあくまでもクライアントであり、シンクタンク側が提出する政策素案をもとに、クライアント側が内外の関係機関との意思疎通を図りながら最終的にとりまとめる構図となる。

したがってシンクタンクの研究者はクライアントの立場にたって調査に望むことが前提となる。そして委託調査においてはクライアントがインフォーマントの有力な一人であるとともに、シンクタンクの研究者も「有識者」としての役割をすでに期待されている。この点で、専門家同士の調査関係になるといえよう。研究者の識見は調査対象における精通の深みと、他と同じ調査課題に対する精通の広さからなる。それゆえ研究者にとっては文献調査が重要な意味をもっていると指摘したい。また他のコンサルタントと異なる視点、発想をみせることで、コンサルティング能力をアピールすることも必要であり、それには個人的見解からの独自性も認められる。ビジネスとしての調査は「違うもの」を根本的にもとめる特質がある。